

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

第2期小浜市まち・ひと・しごと創生推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

福井県小浜市

### 3 地域再生計画の区域

福井県小浜市の全域

### 4 地域再生計画の目標

小浜市は、古くから北川、南川沿い平野部の農地を守ってきたことから、他の都市と比べて可住地人口密度は高く、既にコンパクトな市街地が形成されている。

産業については、古代より朝廷に海産物や塩などを納める「御食国」を支えてきた水産業をはじめ、国内シェアトップを誇る塗箸産業（製造業）を基盤産業として、豊かな自然や食などのすばらしい地域資源を活かした観光産業を中心に発展してきた。

また、日本遺産を活用した「御食国若狭と鯖街道」が2024年7月に全国唯一の日本遺産プレミアムに選定されたことを受け、今年度、「御食国若狭と鯖街道」を軸とした「御食国若狭おばまブランド戦略」を地域一体となり構築している。

さらに、2024年3月16日に開通した北陸新幹線金沢・敦賀間の開業効果を最大限発揮するため、観光誘客や交流人口の拡大に向けた施策を加速していき、また、その先の大阪までの全線開業が実現することで、観光交流の増大や企業進出等の経済的な効果のみならず、人の暮らしや働き方などが大きく変容するため、現在、本市において「北陸新幹線全線開業を活かした小浜市新まちづくり構想」のアップデートを進めている。

他方、本市の人口は、1980年の34,049人をピークに減少しており、住民基本台帳によると2025年10月末は27,272人となっている。国立社会保障・人口問題研究所によると、2050年には総人口が21,212人となる見込みである。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は1980年の7,371人をピークに減少し、2020年には3,479人となる一方、老年人口（65歳以上）は1980年の4,687人から2020年には9,278人と増加の一途とたどっており、少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も1980年の21,991人をピークに減少傾向にあり、2020年には15,326人となっている。

自然動態をみると、出生者数は1995年には353人だったものの、年々減少傾向にあり、2024年には166人となっている。一方で、死亡者数は2024年には434人と増加傾向であり、出生者数から死亡者数を差し引くと268人の自然減となっている。

社会動態をみると、転入者数は2002年までは900人を超えていたが、それ以降2019年を除いて900人を下回っている。2008年、2019年には前年比で大幅に増加したものの、1995年以降減少傾向にある。一方で、転出者数は2001年をピークに減少傾向の中、2012年には前年比で大幅に増加したものの、ピーク時からは2024年時点で250人程度減少している。

自然増減と社会増減を合わせた人口増減をみると、1995年以降は人口減が続いており、2024年は330人の人口減となっている。

このまま人口減少が加速すると、地域社会に及ぼす影響として限界集落の増加、空き家の増加、税収の減少、行政サービスの低下、公共交通の縮小・撤退など、住民生活への様々な影響が懸念される。

このような状況の中、本市は人口減少や少子高齢化を乗り越え、若者や女性など、次の世代が暮らしたくなる、住み心地の良いまちを目指しており、今後は市民と対話を重ねながら、市民の参画が実感できるまちを形成していくことが求められている。

その実現に向けて、「誰もが活躍できる地域社会」の形成と担い手となる「ひと」づくりが必要である。また、定住の基礎となる「雇用」の創出、さらに、安全・安心な生活を送るための「防災」、「健康・福祉」、「子育て」分野においても、施策を推進していくことが重要である。

これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- ・基本目標1 「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち
- ・基本目標2 「しごとづくり」活力ある産業と雇用の創出による稼ぐまち
- ・基本目標3 「まちづくり」地域資源を活かし安心して暮らせるまち

### 【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	KPI	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
ア	社会増減	△373人 (令和2年度～ 令和6年度合計)	±0 (令和8年度～ 令和12年度合計)	基本目標1
イ	新規企業誘致数(延べ数)	4社	12社	基本目標2
	新規誘致・事業拡大による 新規雇用者数	37人 (令和2年度～ 令和6年度合計)	50人 (令和8年度～ 令和12年度合計)	
ウ	健康寿命年齢	男性79.75歳 女性83.02歳	男性79.0歳 女性83.6歳	基本目標3

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例(内閣府)：【A2007】

#### ① 事業の名称

小浜市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち事業

イ 「しごとづくり」活力ある産業と雇用の創出による稼ぐまち事業

## ウ 「まちづくり」地域資源を活かし安心して暮らせるまち事業

### ② 事業の内容

#### ア 「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち事業

次代を担う子どもたちを育むため、出会い・結婚・出産から育児、教育まで、子育てにおけるライフステージに応じて支援する。また、関係人口の増加を将来の定住人口につなげるため、住み心地の良いまちづくりの実現に向けた各種施策を推進する事業

##### 【具体的な事業】

- ・子育て支援拠点施設との連携による相談体制の充実
- ・生涯食育事業の実施
- ・移住・定住サイトを活用した積極的な情報発信 等

#### イ 「しごとづくり」活力ある産業と雇用の創出による稼ぐまち事業

地場産業の活性化および地域資源を活かした農林水産業や観光産業、また製造業などの産業基盤の発展を目指し、北陸新幹線全線開業を見据え、小浜市企業誘致戦略に基づいた産業団地への企業誘致や起業支援などにより新たな雇用・しごとの場を創出することで産業活動の活発化を図るとともに、交流人口の増加に向けた面的開発・高付加価値化を行うことで観光客の増加や地域住民による日常的な賑わいの創出を図る事業。

##### 【具体的な事業】

- ・多様な業種の企業誘致
- ・御食国若狭おばまブランド戦略の推進 等

#### ウ 「まちづくり」地域資源を活かし安心して暮らせるまち事業

頻発する自然災害から市民の生命・財産を守り、市民が安心して暮らせるまちを実現するため、防災体制の強化と地域防災力の向上を図り、自助、互助、公助による防災・減災に向けた取り組みや、ライフステージにあわせた健康教育や健康相談等の保健事業の充実を図り、関係機関や地域で支えあい、市民一人ひとりが健康で生きがいのある生活をともに創っていく「地域共生社会」の実現のほか、SDGsが目指す持続可能な社会の実現、対話によるまちづくりを進め、誰もが活躍できる住み心地の良い魅力あるまちの形成を目指す事業

**【具体的な事業】**

- ・ 防災体制の整備や自主防災組織との連携の強化
- ・ スポーツまちづくりの推進
- ・ 市民提案事業への支援 等

※なお、詳細は、「第3期小浜市総合戦略」のとおり。

**③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標(KPI)）**

4の【数値目標】に同じ。

**④ 寄附の金額の目安**

4,500,000千円（2026年度～2030年度累計）

**⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）**

「第3期小浜市総合戦略」に位置付けた施策の進捗状況やKPIの達成状況とあわせ、毎年度、外部有識者で構成する「小浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議」において評価・検証する。

**⑥ 事業実施期間**

2026年4月1日から2031年3月31日まで

**6 計画期間**

2026年4月1日から2031年3月31日まで